

添付文書

作成年月日 2002年 8月28日 (新様式第1版)
改訂年月日 2006年 3月31日 (第2版)
改訂年月日 2008年 3月21日 (第3版)
改訂年月日 2014年 12月18日 (第4版)

届出番号 13B2X00206000044

機械器具 22 検眼用器具
一般の名称 両眼視機能検査装置 コードN 37071000
一般医療機器 (クラス I)

販売名 ニューステレオテスト

【禁忌、禁止】

本品を曲げ、切削、打刻等二次加工は絶対にしない事

【使用上の注意】

- (1) 本表は十分堅牢なインク、紙により印刷してあります長く光にあたれば変色は免れないため、必要時間以外は表を閉じて下さい。
- (2) 本表を直接手でこすったり乱暴に取り扱わないで下さい。
- (3) 本器及び患者に異常があった場合は使用を中止し適切に処置して下さい。

【保管方法及び有効期間】

- (1) 使用時以外は本を閉じて保管して下さい。
- (2) 常温、常湿、ほこりの少ない所に保管して下さい。
- (3) 使用期間は5年を限度にして下さい。

【保守・点検に係る事項】

- (1) 赤緑眼鏡が汚れた場合はガーゼ等で軽く拭いてください。
- (2) 本表を直接手でこすったり乱暴に取り扱わないで下さい。
- (3) 本器が汚れたり、破損した場合は交換して下さい。

【包装】

一台単位

【主要文献及び文献請求先】

氏名 半田屋商店
住所 〒113-0033
東京都文京区本郷3-37-4
電話 03-3811-0087
FAX 03-3818-9695

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称及び住所等】

株式会社 半田屋商店
〒113-0033
東京都文京区本郷3-37-4
Tel 03-3811-0087
Fax 03-3818-9695

【形状、構造及び原理】

検査表 (本) を赤緑眼鏡を通して見させ両眼視機能 (立体視) を検査する。

140mm X 210mm 10ページ

検査表は3項



【使用目的又は効果】

両眼視機能検査 (立体視検査)

- 1、検査距離 40cm
- 2、練習用視標 あげは蝶
- 3、凸検査用視標 800, 400, 200, 140, 100, 80, 60, 50, 40 秒
- 4、凹検査用視標 800, 400, 200, 140, 100, 80, 60, 50, 40 秒

【使用方法】

- (1) 明室で影が出来ない様に、又反射光ができない様にして、検査します。(400~800LUX程度が望ましい)
- (2) 被検者に正確に眼前40cmの距離に、顔面に平行になるように本表を持たせます。(視線に垂直に)
- (3) 幼児では他の視標が見えると検査図形に対する集中力を失いやすいので、他の視標を白紙等で隠すのも良い。
- (4) 第1表は定性検査用の「あげは蝶」で触角が約4120sec 前羽が約3350sec、後羽が約770sec、それぞれ先端が浮き出している。下方に○×記号があり、○は右眼に×は左眼に見えるので、一方が見えなければ、その眼が抑制されていることを示す
- (5) 第2表は定量検査用の「升目」と「トランプ」の視標で、升目図形はNo1-9で立体視覚 800sec-40sec トランプはA=400sec, B=200sec, C=100sec
- (6) 第3表は定量検査用の「升目」と「トランプ」の視標で、立体図形向こうへ凹んで見える。升目図形はNo1-9で立体視覚 800sec-40sec トランプはA=400sec, B=200sec, C=100sec
- (7) 第2表及び第3表は浮き出している方が見やすい人と凹んでいる方が見やすい人があるので、両種の立体視を検査する事が大切です。